キャンパスセラピー ⑤

ブリュッセルの大聖堂の内側で。天まで届きそうなステンド・グラスが描きたかったんです。

ものすごい人に出会った話

寒くなってきましたね、キャンパスもすっかり冬色です。気温が下がると気力も下がる人がチラホラ。このまま行くと冬眠しちゃいそうな人までいます。今日は元気の出る話をしましょうか。ものすごい人の話を聞くと元気が出るかも……そう、今回はものすごい人を紹介します。実はぼくの師匠です。8年前に53歳の若さで亡くなった天才精神科医。頭のいい人なんて掃いて捨てるほどたくさんいるけど、この人ほどすごい人は見たことがありません。

例えばサル山に１匹だけ見かけはサルだけど、中身は人間が居たらどうでしょう？このサルは圧倒的に有利な地位を独占することが出来るでしょう。でも知能の差が圧倒的だと、他のサルとあまり争わないんじゃないかな。きっと静かに暮らしていて、請われれば教えもするけど、基本的には独りで楽しく知的好奇心を満たしながら遊んで暮らすんじゃないだろうか……、中身は人間だからサル社会を変えようなんて基本的には思わないし、でも、支配しようとも思わない。だって、大人が小学生のなかでガキ大将になるために必死になったりしないでしょ。

そう、師匠はまさにそんな人、つまりはサルの中の人間のように、人間のなかに住んでた人間以上の人「超人」だったのかもしれない。こう書くと、もはや物語の世界みたいだけど、本当に師匠は超人だった。精神医学はいうに及ばず内科・外科にも精通し、すべての骨の出っ張り、くぼみの名称までラテン語でスラスラ出てくるほど。西洋医学だけでなく漢方医学も詳しかった。しかし、こんなのは序の口で、ほんとのすごさはここから。動物学、植物学から哲学、思想、宗教さらには文学、映画、漫画、落語、写真、ほとんどどんな分野でも知ってる博覧強記ぶり。確かに物知りというのは多いけど、大抵はハッタリの多い人で性格悪いのが多い。要するに「オレはお前より優れているぞ」と言いたいわけです。つまりは必死にドングリの背比べをするわけです。でも師匠の場合はその必要が全くなかったようです。圧倒的な差というのは優しさと結びつくようです。師匠は何年もある新聞の人生相談を受け持っていて、史上最強の人生相談とうたわれました。大学の講義ではあまりの人気で講義室があふれていました。診察室では他の医師がサジを投げた患者が治っていきました。ぼくは時々思うのですが、あんなにすごい人が何故医学部に進んだのか不思議な気がします。でも、とどのつまり師匠は人間が好きだったようです。

さて、いかがでしたか。ものすごい人の話って面白いでしょ。もう少し聞きたければぼくの本「心療内科医のメルヘン・セラピー」（講談社）のなかの「超人あるいは老人」を読んでください。師匠をモデルにして書いた物語です。え？　師匠の名前ですか？　頼藤和寛といいます。とても面白い本をたくさん遺されました。ちなみにぼくの好きな本は「『自分』取扱説明書」（金子書房）。題名だけでもワクワクしませんか？ぜひ自分の取り扱いに悩んでいる人は御一読を……。

文化コミュニケーション学科教授
なかがわ中之島クリニック院長
中川　晶

編集後記

大産大附属高校の奈良くるみさんが、ついに日本テニス界の頂点に立ちました。全日本テニス選手権優勝です。試合直後の11月17日、奈良さんは優勝報告に登校しました。コートでは勝負にかけるたくましい顔を見せていますが、高校に戻ると18歳の幼さも残る親しげな表情に。母校は奈良さんにとって、やはり「楽しい」ところのようです。その後、奈良さんは今月の全豪オープン出場に備えてすぐに練習場に戻りました。編集部では、なかなか登校できない奈良さんの声を学園に届けるべく奈良さんにメッセージを書いてもらい誌面に掲載しました。奈良さんは４月には大産大に進学します。世界に挑む学園の仲間にみんなの声援を！▲大産大のミャンマー人女子学生、イータンダーウィンさんが女子留学生日本語弁論大会全国大会で努力賞受賞。弁論では、ミャンマー人学生の眼で見た日本社会の姿がいきいきと描かれています。物質的に豊かさを享受する日本人が不満を口に出し、家族の関係もギクシャクしているケースが多い現実を見つめ、軍事政権の国でありながら仏教をベースに心豊かに生きるミャンマー人の生活スタイルと比較しています。深く考えさせる内容です。弁論の要旨を掲載しました。大産大には留学生が1151人います。全学生の１割強。地域もアジアを中心に18カ国に及びます。さまざまな視点から物事を考える上で、留学生の存在は大切です。日本人学生と留学生の間でもっと議論が行われれば、素晴らしい体験となるのではないでしょうか▲依然として厳しい就職活動。それを支援してくれるキャリアカウンセラーを学外から招いています。カウンセラーの一人、吉中さんの話を聞きました。吉中さんは連絡の取れない学生に積極的に電話をかけて相談に乗っています。偶然かけた電話の学生は「この電話をもらわなかったら、フリーターになるところだった」と喜んでくれたそうです。相談したくてもどうしたらいいのかわからない、という学生が多数存在していることが想像できます。ひとりで悩んでいないで、もっと相談してほしい。吉中さんは、就職が決まらない学生が相談しやすい日曜日に、なるべく大学に待機しているそうです。就職活動中の学生の皆さん、あきらめないで。

（編集長・山名康弘）

募集中！ プロジェクト共育「ニュース記者体験プロジェクト」に参加しよう。君も「NeOSU」記者・カメラマン・イラストレーター・編集者に
問い合わせは　学園広報課（本館9階）　e-mail：kouhou@cnt.osaka-sandai.ac.jp まで

NeOSU SCHOOL JURIDICAL PERSON OSAKA SANGYO UNIVERSITY News Letter
2010 1月号 No. 8
発行元：学校法人大阪産業大学 綜合企画室 学園広報課 〒574-8530 大阪府大東市中垣内3丁目1番1号 TEL：072-875-3001 http://www.osaka-sandai.ac.jp

写真提供：共同通信社

1月号
2010（平成22）年 1月15日発行

NeOSU SCHOOL JURIDICAL PERSON OSAKA SANGYO UNIVERSITY

学園ニューズレター［ネオス］No. 8
発行元：学校法人大阪産業大学
綜合企画室 学園広報課
〒574-8530大阪府大東市
中垣内3丁目1番1号
TEL：072-875-3001
http://www.osaka-sandai.ac.jp

奈良くるみ選手 優勝！
全日本テニス選手権

平岡伸一郎校長への優勝報告

OSUソーラーカープロジェクト

Global Green Challenge 2009 in Australia

豪大陸縦断レースでアドベンチャークラス初優勝！

Darwin（ダーウィン）
Alice Springs（アリス・スプリングス）
Adelaide（アデレード）
Sydney（シドニー）
Melbourne（メルボルン）
同縮尺の日本地図
1,000km

10月24～31日にオーストラリアで開催されたソーラーカーレース「Global Green Challenge 2009」で、OSUソーラーカープロジェクトが出場4回目にして、初のクラス優勝を成し遂げた。同レースは世界3大ソーラーカーレースのひとつに数えられ、参加チーム数の多さなど規模では世界最大級。灼熱のオーストラリア大陸3000㌔を、キャンプしながら走破する過酷なレースとしても知られている。OSUチームは学生と教員ら16名が見事なチームワークを発揮し、2位に大差をつけての圧勝だった。

OSUソーラーカープロジェクト、成果あげ、学生も大きく成長

▶一般公道3000㌔を激走

このレースは1987年「World Solar Challenge」として始まって以来、22年の歴史を誇る。オーストラリア北部の港町・ダーウィンから、南オーストラリア州の州都でやはり港町のアドレードまで、約3000㌔を5日間かけて走る。前回まではソーラーカーだけの競技だったが、今回からは電気自動車など他のエコカーも参加する「Global Green Challenge」となり、ソーラーカーレースは、そのなかのWorld Solar Challenge部門と位置づけられた。

クラス優勝の看板

さらにWorld Solar Challengeは、車両のサイズや安全性などで新しい規格を定められたチャレンジクラスと、従来からの規格で戦うアドベンチャークラスに分けられ、OSUプロジェクトチームはアドベンチャークラスに出場。1996年の総合8位、1999年の同10位という経験を経て、今回の初優勝となった。

走行するのはスチュワートハイウェイと呼ばれる公道で、ダーウィンやアデレード付近を除けば、ほとんどが内陸の砂漠地帯。午前8時から午後5時までと決められた競技時間内に、車両に貼り付けたソーラーパネルで発電しながら走り続ける。その日のゴールから日没までと、翌日の日の出から出発までの充電も認められているが、ともかく太陽光だけが頼りのレースだ。チームの編成は、競技車両のソーラーカーの他、その前を行く先導車、後ろを走る指令車が競技規則で義務付けられており、その他には、この3台の数十㌔先に道路状況や天候、その日のキャンプ場所探しなどを受け持つ"偵察隊"役の先々導車、さらに3台の数㌔後方に整備機材やキャンプ用具・食糧などを積んだ支援トラックを加えた計5台。ドライバーと支援スタッフを含めると総勢30人規模のチームが多かったが、OSUチームは16人の少数精鋭で挑戦した。

▶安全重視も2位以下に大差

走行するのは大半が砂漠地帯だから、沿道の人家などはほぼ皆無。今回のレース中も、朝起きてみると、ソーラーカーの車体に正体不明の巨大グモが取り付いていて驚かされるなど、まさに大自然の中のレースだ。レース中、食事はすべて自炊で寝るのも野宿。主催者側の審判役としてオブザーバーが指令車に同乗するが、万一の際もレース主催者や沿道からの支援はほとんど望めない。そんな厳しい条件だけに両クラス合わせて出場32チーム中、規定時間内に完走できたのは、アドベンチャークラス2、チャレンジクラス8のわずか10チーム。OSUチームは最高時速109㌔、巡航時速90㌔弱で走り続け、アドレードまでの所要時間は34時間45分。2位オーストラリアチームの44時間17分に大差をつけての優勝となった。

アデレードのビクトリアスクエアにあるゴールゲート下での集合写真

この勝因について、今回のチームリーダーを務めた、本学教育支援センター助手の村上雅亨さんは「今回の出場車両は製作以来すでに5年たち、最新の車に比べるとソーラーパネルの性能などで見劣りするのは確かです。たとえば、今年チャレンジクラスで準優勝したオランダのデルフト工科大のチームは、ソーラーパネルに5億円をかけたと言っていましたから、我々とは比べようもありません。しかし、我々も毎年、鈴鹿サーキットでのソーラーカー世界選手権に出るなどして技術改良を重ね、スタッフも経験を積んできた。そして少数精鋭でしたが、参加した学生全員が、完ぺきにそれぞれの役割を果たしてくれた。優勝は、それらの総合的な成果でしょう」と話す。

無事完走、無事帰国を大目標に安全重視でレースに臨んだが、公道を走るだけに、サーキットレースとは違った"危険"もあった。そのひとつが、一般車両を追い抜くこと。もちろん、普通の乗用車ならソーラーカーより速いから問題ないが、「オーストラリアではロードトレインと言って、トレーラーの台車を4台ほどつないだ、電車のような車が走っているのです。その列車のような車を追い抜くには、長時間、対向車線を走らなければいけない。いつ対向車が来るかわかりませんから、非常に怖い。また、ダーウィンとアドレードでは市街地の走行になり、渋滞もあるんです。ソーラーカーは車高が低く、他の一般車からは見えにくいので、指令車の後ろから割り込みをされるんですね」と村上さん。

ソーラーカーをメンテナンスする学生

衛星通信を行う学生

▶衛星中継で環境教育も

オーストラリアの10月末は日本の春先に相当するが、出発地のダーウィンでは最高気温が連日、37～38度の猛暑日。もちろん、クーラーなど装備していないレース車両の車室内は60度にもなった。そこで数時間も運転し続けるドライバーも、支援車両のスタッフらも暑さとの戦いだが、野宿生活では風呂やシャワーなど無理。毎日、赤ちゃん用の清浄綿で身体を拭いたが、2～3日で身体は臭うようになったという。キャンプ地は、朝夕の充電に適した場所かどうか、つまり日照が十分あるかどうかを最優先で選ぶので、トイレなど人間の都合は後回し。食事も時間と体力をレースに集中するため、レトルト食品やサンドイッチなど簡単なものばかりと、スタッフの体力的・精神的負担は相当なものになっていた。

しかし、10月29日午前10時49分、ゴール地点であるアデレードのビクトリアスクエアに到着し、多くの観衆から祝福されて、優勝記念のシャンパンファイトをすると、それまでの苦労も吹き飛んだ。

アデレードのゴールゲートをくぐった瞬間

また、レース前後の10月22日と11月1日には、日本との間を衛星生中継で結び、環境教育に取り組む四条南小学校の児童や、本学ホームカミングデーの参加者との交流を行うなど、学生らの頑張りでクラス優勝にとどまらない大きな成果を得ることができた。

「この挑戦のすばらしさは、学生自身が主体的に考え、行動することで大きく成長できる点です。実際、今回の学生たちもレースの前後で、たくましさがまるで違いました。たとえば、レース後は出場車両の展示があり、一般の見学者たちがあれこれ質問してくるのですが、英語を話せる学生などほとんどいなかったはずなのに、彼らは堂々と質問に答えていましたからね」（村上さん）

次なる目標は、新しい車両を製作してのチャレンジクラス挑戦か、それとも、燃料電池車でGlobal Green Challengeに出場か。OSUプロジェクト共育の夢は、さらに広がっていく。

全試合ストレート勝ちで快挙

奈良選手、全日本テニス初優勝

東京・有明コロシアムで11月7～14日に行われたテニスの全日本選手権女子シングルスで、大産大附属高校の奈良くるみ選手（普通科特進3年）が全試合ストレート勝ちで初優勝を飾った。

米村和子選手との対戦となった決勝は、試合前のインタビューで「強気で攻める」と語っていた言葉通りの展開。第1セットで3−4とリードを許しても、「ミスをしても仕方ない。思いっきり打つ」と強気の姿勢を貫き、7−5と逆転してこのセットを取った。第2セットはうってかわって粘り強いリターンを軸に6−1と圧倒。文句なしの勝利を手にした。

昨年4月、プロに転向したばかりの奈良選手。ジュニア時代には全日本ジュニアの女子シングルスで12、14、16、18歳以下のすべてのクラスで優勝。2007、08年の全日本選手権ではベスト8に進出していた。

写真提供：共同通信社

クラスメートとの会話で心がリフレッシュできた

奈良選手に聞きました。

――優勝の感想は

奈良　狙っていたのでとてもうれしかったです。

――昨年を振り返って

奈良　昨年は海外の強豪選手とも競うようになって、ずいぶん自信にもなりました。また、課題もいっぱい見つかりました。

――日ごろの練習場所などは

奈良　今は東京が練習拠点です。試合のサーフェースで練習場所は変わりますが、普段はナショナルトレーニングセンターでコーチと練習してます。

――今後のツアーの予定は

奈良　昨年は日本国内の試合が多かったですが、今年からは海外の試合がほとんどになります。まずは1月の全豪オープン（メルボルン）に出場し、高校の卒業式に臨みます。

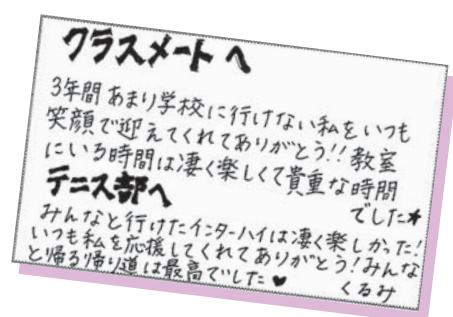
――大産大附属中学・高校での6年間はいかがでしたか

奈良　楽しい想い出でいっぱいです。クラスメートとの普通の会話は楽しく、全くテニスのことを忘れられ、心のリフレッシュができました。また試合になれば、応援のメールをもらい、クラスのみんなから力をもらい、勝てば勝ったでお祝いのメールをもらいました。とにかく6年間学校生活を送らせていただき、勉強の機会を与えていただいたことに感謝しています。

――本校のスポーツクラブへメッセージを

奈良　スポーツを理解し、応援してくれているので、自分次第では高校生活も充実したものになります。頑張ってください。

クラスメートへ
3年間あまり学校に行けない私をいつも笑顔で迎えてくれてありがとう!! 教室にいる時間は凄く楽しくて貴重な時間でした★

テニス部へ
みんなと行けたインターハイは凄く楽しかった! いつも私を応援してくれてありがとう! みんなと帰る帰り道は最高でした♥
くるみ

自筆のメッセージ

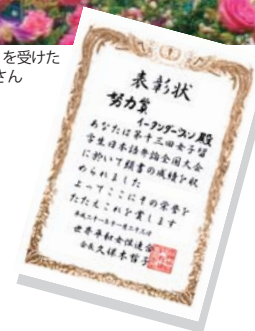
――来年は大産大に進学しますが、入学後の抱負を

奈良　ユニバーシアードに出場できるので、頑張りたいです。大学でもいろいろな事を学び、楽しく過ごせたらいいなと思います。

ミャンマー留学生

イータンダーウィンさんが努力賞

女子留学生日本語弁論全国大会

全国大会で「努力賞」を受けたイータンダーウィンさん

大産大に在籍するミャンマーからの留学生、イータンダーウィンさん（経営2回）が11月23日に東京で開催された女子留学生日本語弁論大会（世界平和女性連合〈WFWP、国連NGO〉主催）の全国大会で午前中の予選（30人中9人を選出）を突破、午後の本選で見事「努力賞」を受賞しました。

この大会には、予選（南大阪・高石地区大会10月17日／大阪・茨木高槻地区10月31日）でともに「最優秀賞」を獲得したイータンダーウィンさんと、中国からの留学生、陳裕興さん（経済4回）が出場していました。

熱のこもった弁論を披露する陳さん

■イータンダーウィンさんの弁論要旨

私の国と日本

―心の豊かさ、それは自分の中にある―

3年半の留学生生活で日本の自然、生活環境そして日本人が好きになりました。

アルバイト先のやさしい店長とおかみさんの夫婦愛、仕事となると人が変わったみたいに見せる職人魂。私はそこで働いていた間、日本人の勤勉さ、心の暖かさ、そして、なによりも日本文化の奥深さを教科書で読む以上に理解できました。そして、近代的社会の中でマナーよく生活する日本の人々。日本のすばらしさを祖国に持ち帰りたいと思いました。

けれども新しいバイト先で、あるお客さんに「どこの国から来たの」と聞かれ、「ミャンマーです」と答えると、「へぇ、ミャンマーか、危ない国やな。大変だったやろう」と突然言われました。彼がどういう意図で言ったのか正直わかりませんでしたが、この言葉を聞いた私はショックを受けました。この質問をされるたびに悲しくなりました。しかし、人と話し、ニュースを見たりするうち、日本のマスコミが伝える情報が政治的なことだけだからそうなるんだということがわかりました。

そこで、日本人にミャンマーのことを教えなければと考えました。今日も皆さんにミャンマーと日本の違いを少しでも知っていただきたいと思います。ミャンマーでは仏教の教えが浸透し、人々は道徳観念を重んじ、内面的な豊かさや家族を大事にして生活を営んでいます。私が大好きなのは自分の誕生日です。家族みんなで正装して、早朝からお寺に出かけ、仏像の前で私のために祈りを捧げ、そのあとみんなでお寺の掃除も手伝い、そして最後はこのような幸せが他人にも渡るように、いつも御布施をしました。このようなお参りは私にとっては毎年の最高のプレゼントでした。

便利で快適な環境で、不満を述べたり、家族が断絶した日本人の話を聞くたびに寂しくなります。たしかにミャンマーが日本を見習うべきことはたくさんありますが、ゆったりした環境の中で心を落ち着かせ、大事な家族と毎日を質素に送ることで、より心の豊かさを見出そうとするミャンマースタイルも、今の日本人にとって見習うべきものがあるのではないでしょうか。一度ミャンマーに行って、ご自分の目で私の国を確かめてみませんか。

就職非常事態宣言

就職戦線に 5人の強力助っ人

学外キャリアカウンセラー

2009年7月時点で大学生の就職内定率は45%(関西圏)。就職活動が長期化するなど就職戦線が厳しさを増す中、本学キャリアセンターでは、学外のキャリアカウンセラーを招き、センター職員と一体となって、いっそうの学生支援強化を目指している。センターとしての狙いを岡本信幸次長に、また学外キャリアカウンセラーの一人である吉中三智子さんに、支援状況や学生の活動姿勢について聞いた。

補助金活用、日曜も出勤

学生の就職支援活動などを請け負う業界の専門家によれば、今、大学が卒業までに学生の進路を把握している割合は、文科系では4割程度しかないという。残りの5、6割の学生については、内定をもらったのかどうか以前に、就職活動をしているのかどうかもわからない状況。あまりに厳しい結果、思うように行かない活動に挫折して、大学に活動報告もしない学生が増えているのだ。それほど、昨今の就職状況は厳しく、各大学の就職課やキャリア支援部門は、就職をめざす学生の支援に苦心している。

「就職非常事態宣言」を発した本学でも、その状況は同じだ。やれることは何でもやる、という方針のもと、キャリアセンターを中心に様々な取り組みを実施しているが、平成21年度の文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」に申請、採択された「就職非常事態宣言に基づく取組」も、そのひとつ。9月からは文部科学省の補助金制度を活用して、学外の就職支援の専門家であるキャリアカウンセラー5人を招いて、学生支援活動に参加してもらっている。火曜、木曜を中心に、キャリアセンターに待機して来場する学生の相談に応じるほか、日曜にもセンターに出勤して、学生への電話や相談業務に取り組んでいる。

岡本次長

外部の方の視点に期待

外部からの応援を求めた狙いについて岡本次長はこう説明する。

「要するに非常事態ですから、できることはすべてやるということです。利用できる文部科学省の補助制度があるなら、それも利用して、期間限定であっても外部専門家の協力を得る。就職活動の時期が長期化する一方、学生の気質も以前とは変わり、より少人数、より個別の対応を行う必要があるが、センターの人員では限界があり、それを外部の方にカバーしてもらうという意味です」

実際、キャリアカウンセラーの人に、連絡の取れない学生への電話連絡を担当してもらう部分もあるという。ただ、単純な人員数の増加、戦力補充だけではないと岡本次長。

「我々も誠心誠意、全力で学生支援に取り組んでいますし、専門知識も経験もある。しかし、もしかすると、学生も職員も同じ大学ということで、見えないことがあるのかも知れない。外部の方ならではの目のつけどころ、外部の専門家ならではの学生との接し方というのもあるかも知れない。学生にしても、外部の人なら相談できるということが、ひょっとするとあるかも知れない。ともかく、この非常事態ですから、あらゆる可能性を探って行こうという試みです。我々も外部の専門家の活動をみて学ぶことは学びたいと思っているし、学生さんにもこの新たな取り組みを、ぜひ活用してもらいたいと思っています」

2011年3月学部卒業・大学院修了予定者対象

上場企業150社が集結!!

学内合同企業説明会

日時：2010年2月9日(火)・10日(水)
13時30分~16時30分(予約不要)
場所：総合体育館

毎年、多くの学生が、この説明会から内定につながっています!!

主な参加企業(昨年度実績)
大和ハウス工業株式会社・大阪ガス株式会社・株式会社デサント・西日本旅客鉄道株式会社・郵便局株式会社・関西電力株式会社・五洋建設株式会社・株式会社京阪百貨店・野村證券株式会社・株式会社マンダム・大和証券グループ・日本通運株式会社・ユニ・チャーム株式会社など**150社以上の有名上場企業が参加!!**
(参加企業については、現在調整中です)

●お知らせ●
上記日程以外にも、学内合同企業説明会を開催致します。
2月16日(火)・17日(水)・18日(木)・19日(金)
3月2日(火)・3日(水)・4日(木)・5日(金)の8日間で1日15社前後を予定。
キャリアセンター

私にNGを出してもOK まずはやってみること

キャリアカウンセラー　吉中三智子さん

最終段階のNGにめげない

私たちのような外部の専門家が、大学の就職支援活動のお手伝いをするという形は、今は珍しいことではありません。大産大のキャリアセンター職員の方も私たちも、学生さんのより良い就職支援をという気持ちは同じです。

もちろん、センター職員の方は基本的に毎日、このセンターにおいでなのに対して、私たちはいつもここにいるわけではありませんが、多様な企業や大学でのカウンセリングや研修指導の経験を持っているため、いろいろな大学の状況やさまざまな企業の実態、あるいはいろいろなタイプの学生さんを知っています。そういうものが、私たちの資源・資産ですから、これを最大限に活用して、相談業務にあたらせてもらいます。

今年の就職戦線の傾向ですが、最終選考までは残るものの、最終でNGを出される学生が多いようです。最後まで残って落とされるのですから、学生さんの精神的疲労が激しく、その結果、次の活動への意欲を持てず、あきらめてしまったり、うちに閉じこもったりしてしまうケースも見られます。しかし、そこであきらめては状況は変えられません。私たちは、それぞれの学生さんの状況や性格なども考えながら、慰めや励まし、具体的な助言などで、何とか活動を継続してもらえるよう支援します。カウンセラーは本来、ああしなさい、こうしなさいという仕事ではないのですが、時には厳しいことも言わせてもらっています。それは学生さんに、自分で気づいてほしいからですね。

「気づき」をお手伝いする

先日も、大産大のある学生さんに電話をしました。センターからはずっと連絡が取れなかった人で、電話が通じたのは偶然でしたが、ともかくその学生さんは、「もし、この電話をもらわなかったら、フリーターになるところでした」と、素直に喜んでくれたのです。そして、「ひとりで悩んでいても仕方ないから、一度、センターに相談においでよ」と誘うと来てくれました。センターでいろいろ話をして、履歴書の添削などをしてあげているうち、学生さんのほうで「アッ」「そうか」と、さまざまなことに自分で気づいてくれるんです。そして、前向きに活動を始めてくれました。

私は可能な範囲で、日曜にも出てくるようにしています。センターでゆっくり相談したり資料を調べたりできる日曜を選んで来る学生さんの支援もしたいと思うのです。私と話をして、資料を調べて、もう一度話をしにきて、そしてすっきりとした笑顔になって、「明日から頑張ります」と言って帰る学生さんもいるんです。

自分で言うのも何ですが、私は話しやすい人間だと思っています。ひとりで悩んでいないで、ぜひ相談に来てください。もちろん、カウンセラーと学生さんの相性というものはあります。相性が合わないと感じたら、遠慮なく「別のカウンセラーを」と言ってくれればいいのです。企業選びも同じことで、おいしいかまずいかは、食べてみないとわかりません。ともかく、何もしないで考え込んでいるのが一番良くない。ぜひ相談に来るなり、電話をくれるなり、行動を起こしてほしいです。全力で応援させてもらいます。

花嶋先生の
おもしろ研究室
大探検

今回は、人間環境学部生活環境学科の前迫ゆり教授をお訪ねしました。(生活環境学科講師・花嶋温子)

森は動いている?

虫好き、鳥好き、植物好き、みんな集まれ

人間環境学部生活環境学科
前迫ゆり 研究室

人のかかわりが生態系に重要

花嶋　まず、生態学って何ですか?高校で習う「生物」との関係は?

前迫　高校の「生物」をもう少し発展させた、大きな意味での生物科学の中には、分子生物学、細胞生物学、動物行動学、生態学というふうに対象とする範囲によっていろいろな分野名がつけられています。生態学というのは、さまざまな生物の生活、生物群集の法則を、その環境との関係で解き明かす科学で、生態系のメカニズム解明をめざしています。

花嶋　例えば?

前迫　森林の生態系を維持していく仕組みを理解するのに、植物だけ見ていてもわからないことも多いのです。植物と動物の相互作用を見ないと、森林の生態系は見えてこない。さらには、人のかかわりが生態系の維持に重要な役割を果たしていることもあるので、"人間"と"森林"との関係性をとらえることも必要です。

花嶋　最近、イノシシが街中で暴れまわってるとか、シカが畑の作物を食べてしまったとかいうニュースをテレビで見かけますね。

前迫　野生動物の種類は減っているのに、人里に降りてくる野生動物が増えているのです。たとえば、シカが全国的に増えていますが、一つには、地球温暖化などの影響で気温が上がり、冬季の死亡率が低下したことがあげられます。もう一つの大きな要因は、人のライフスタイルが変わったことです。

花嶋　人のライフスタイルと自然?

前迫　以前は、森や田んぼで人が農作業をすることによって、人と自然がゆるやかにかかわる場があったのですが、これが減ってきました。これをアンダー・ユース(under use)の問題といいます。と同時に、道路や建物を作るなど人が森を過剰に開発するオーバー・ユース(over use)の問題も生じています。地域固有の生態系が崩れていっているので、フィールドでの研究をもとに、生態系を適応的に管理する保全策の立案が必要となっているのです。

花嶋　どうなっているかを調べて終わりじゃないのですね。

前迫　たとえば森も、いろいろな要因が複雑にからみあって日々動いているのです。この動いている森を長期的に調査解析することによって、森林の動きを予測し、未来に向けてどうしたらいいのかという保全策を考えます。

入口はオタクでいい

花嶋　「生物好き」というともっと「オタク」なイメージを持っていました。前迫先生のアクティブでバランス感覚に優れた雰囲気は実は生態学で培われたものなのですね(笑)。

前迫　入口はオタクでいいんですよ。虫好き、鳥好き、植物好き、みんな集まれです。フィールド研究というのは、自分の目でとらえたことを、データとして積み上げていく方法をとります。動物でも植物でも、まずじっくり観察して生きものをとらえる視点を持つということが大切です。そのためには少し長い時間が必要です。そこで、AO入試の「生態いきものAO」やプロジェクト共育の「森川田んぼ」などで集まってくれた学生たちには1回生からフィールドに出て、じっくりと自然にかかわり、自然を観察し、調査してもらっています。

　まず、1回生でフィールドの視点を持つ、2回生で授業の中で専門的理論を学ぶ、3回生でフィールドの視点と理論を融合させる、4回生で自分の力でリサーチするということを目標にしています。もちろんプロジェクト共育の「森川田んぼ」は全学の学生対象なので、他学部からの動物好きや畑好きも集まって一緒に楽しく活動しています。

花嶋　プロジェクト共育「森川田んぼ」では、学内だけでなく地域の人たちとの交流もしていらっしゃいますよね。

前迫　自然環境の保全には、その地域の住民や行政の力が欠かせません。生態系保全活動を担う人材育成のために、実際に行政や地域の人々とつながりを持ちながら活動しています。生駒キャンパスのすぐ近くに龍間という地区があるのですが、その地域の方々が畑を貸してくださり、来年、収穫ができれば、学生たちと一緒に直売もやってみたいと夢をふくらませてくださっています。大東市の行政も支援してくれています。

　また、明日香の稲渕という地区の棚田オーナー制度に応募しようと計画しています。この地区では秋になると田んぼにそれぞれ案山子をたてて案山子ロードができあがるので、それも楽しみです。

楽しいコロニーを形成?

花嶋　畑をやってみたい、田んぼをやってみたいという学生がそんなにいるんですか。

和田(生活環境2回生)　「森川田んぼ」のメンバーの和田です。やったことはないのですが、畑作に興味があります。家畜も好きなので、牛耕にもあこがれています。

田中(生活環境2回生)　小さいときから畑や田んぼに囲まれて育ちましたが、畑は母の趣味で、私は手をだせませんでした。だからやってみたいと思っています。

宮田(生活環境1回生)　大阪市内で自然にふれあうことなく育ちました。だからこそ、山登りなど自然にふれあうことが好きです。

花嶋　「森川田んぼ」のプロジェクト共育には現在何人の学生が参加しているのですか?

前迫　21人です。人間環境学部だけでなく工学部の学生もいて、みんなそれぞれいろいろなことをやっています。

山田(都市環境3回生)　僕は幼稚園の時から昆虫が好きで、小学校の頃は毎日学校に虫かごを持って行っていたし、中学校では「生物会」、高校では「生物同好会」でした。今は、水生昆虫のゲンゴロウとタガメの調査をしています。

早川(生活環境2回生)　「森川田んぼ」って何やねんという軽い気持ちで参加してみたのですが、京都の冠島という無人島でオオミズナギドリの調査をしました。普通じゃできない体験ができておもしろいです。

花嶋　じゃあ今度は、卒業研究で取り組んでいる学生に聞いてみようかな。

磯野(都市環境4回生)　僕は卒業研究で、奈良の春日山の原生林におけるシカと植生との関係を調査しています。春日山は、道を歩くだけなら一般の人でも行けるのですが、森の中に入るには国の許可が必要です。前迫先生を通じて許可をとっていただいたので、森の中へ入ることができました。森の中は何もかもがおもしろいですよ。

春日山での卒業研究

花嶋　他の卒研生はどんな研究をしているのですか。

磯野　ごくごく簡単に説明すると、シカ、カエル、カメ、タケ(竹)、カシ、ガイライシュ(外来種)、モリ(森)です。

花嶋　簡潔にありがとう(笑)。

前迫　学生たちはさまざまなフィールドでさまざまな生き物に取り組んでいます。どうやって環境と生物がつながっているのか、関係性をとらえるために調査をしているのです。生き物とそれを取りまく環境は、不規則に動いているように見えるのですが、長く観察しているとその関係性がキラッと見えることがあるのです。だから、フィールド・ワークは面白いのです。

花嶋　ありがとうございました。前迫先生とその周辺の学生たちの「関係性」がよくわかりました。前迫先生をはじめとして、本当に楽しそうなコロニーでした(笑)。

竹林での授業(フィールドスタジオワーク)

大産大附属中学・高校

全国大会へあと一歩
ラグビー部初の予選決勝で敗退

大産大附属高校ラグビー部は、第89回全国高等学校ラグビーフットボール大会大阪府第2地区予選で創部以来初の決勝進出を果たした。11月8日、近鉄花園ラグビー場で行われた試合は残念ながら全国優勝2回の強豪、東海大仰星に10―39で敗れたが、試合開始直後から積極的に攻め込むなど善戦。予想以上の好試合だったとの声も聞かれた。来年こそは、この悔しさを忘れず、新年度の新人戦から結果を出して、しっかり練習を積み重ね、初の全国大会進出を決めてもらいたい。

◇大阪府第2地区予選の結果◇

2回戦○不戦勝（棄権）八尾　準決勝○31－12関西創価
3回戦○31－7布施工　決　勝●10－39東海大仰星

心温まるもてなしに感激
中3ニュージーランド研修

交流校のセントピーターカソリックスクールの生徒と楽しく語らいながらの昼食風景

中学3年の77人が11月1～7日の7日間、研修でニュージーランドを訪れた。当初は7月実施予定だったが、新型インフルエンザの影響でこの時期に変更になったもの。

この時期のニュージーランドは初夏。天候も穏やかで過ごしやすく心配されていた健康面も誰一人体調を崩すことなく、充実した内容の日程をこなすことができた。ファームステイでは、日本では考えられない牧場の広さと羊や牛の数のあまりの多さに驚かされ、またホストファミリーの心温まるもてなしに感激の日々だった。

学校交流会では、現地の生徒たちと言葉はあまり通じていなかったかもしれないが、笑顔と身振りでお互いの心を通わせることができた。ラグビーやサッカーなどのスポーツも一緒になって楽しみ、スポーツに言葉の壁は関係ないということを証明してくれた。観光では、天候にも恵まれ、行く先々で多くの美しい景色を見たり、いろいろな場所でニュージーランドの歴史や文化について学ぶことができた。

生徒たちには、短い期間ではあっても、すべてが貴重な体験となり良い思い出になった。

子育てのヒントがいっぱい
水野准教授迎え教育講演会

大産大附属中学・高校後援会主催の教育講演会が11月21日に開催され、約130人の保護者、教職員が参加した。

講演会では、大阪教育大の水野治久准教授が「より良い親子関係のためのカウンセリング技法について」をテーマにお話をされた。水野氏は「まず困っている保護者、特に母親が元気になりましょう」という目からウロコのアドバイスから開始。保護者同士が2組になっての自己紹介や、「どうしたんですか」と声かけながら、一番心地よく感じるカウンセリング時の位置関係を体感してみるワーク。「苦手な科目を『勉強しなさい』と強要するのではなく『好きな科目からやってみよう』と声をかけて下さい」というような停滞した事態に風穴が開き、関係が好転する予感がしてくる即戦力に満ちた「11のアドバイス」と続いた。多感で時には不安定となる子どもへの接し方に戸惑い、悩みがちな保護者、教員にとって、まず今日から取り入れ、試みたい方法やヒントがたくさん聴けた貴重な講演会となった。

大阪桐蔭中学・高校

2回目出場で初の金賞
全日本マーチングで吹奏楽部
全日本吹奏楽に続きダブル受賞

大阪桐蔭高校吹奏楽部は11月29日、大阪城ホールで開催された第22回全日本マーチングコンテスト高校以上の部で初の金賞に輝いた。10月の全日本吹奏楽コンクール金賞に続く快挙。コンテストには、関西代表4校を含む25校の各地区代表校が出場し、金賞9校、銀賞9校、銅賞7校が決定。大阪桐蔭は初出場した昨年、銀賞だった。

ジャズやポップスが多い演奏曲の中で、風格、音楽のクオリティの高さを出そうとファリャ/バレエ音楽「三角帽子」などのクラッシックにあえて挑戦。出場メンバーは、コンクール出場組20人を含む109人で編成された。コンテスト前日からは、桐蔭シンフォニックホールに泊まり込み、大学総合体育館で深夜までと翌朝に仕上げの練習を行い、万全の体制でコンテストに臨んだ。

梅田隆司教諭・総監督は、「ダブル金賞受賞で、正直のところ後が大変というのが実感。今のレベルを維持し不動のものにするために、気持ちを引き締めて一丸となってやっていきたい」と語った。地元開催ともあって、会場には多数の保護者が駆けつけ、会場全体に大きな感動を与える素晴らしい演奏・演技に、惜しみない拍手を送っていた。

ダブル金賞受賞で出演依頼が増えている吹奏楽部の今後の予定は以下のとおり。

―2月16日―
ザ・シンフォニーホールで定期演奏会
―2月26日～3月1日―
台湾ランタンフェスティバルから出演依頼あり
―4月4日―
大阪のトップバンドが集う大阪城野外ステージでの「スプリングコンサート」
―5月2～4日―
ラ・フォル・ジュルネ金沢

サンタ姿で華やかに演奏
「OSAKA光のルネサンス2009」メーンパフォーマンス

大阪市などの実行委員会が主催し、12月12日にスタートした大阪最大のイルミネーションイベント「OSAKA光のルネサンス2009」のメーンパフォーマンスで大阪桐蔭高校吹奏楽部が演奏した。

中央公会堂前での橋下徹・大阪府知事、平松邦夫・大阪市長、やしきたかじん氏などが参加して行われた点灯式では、サンタクロース姿の部員による華やかな演奏の中、中之島エリアのイルミネーションが一気に点灯した。中央公会堂では、建物正面の壁一面に平和の鐘や四季の花などをモチーフにした「光絵画」も初公開された。

高須選手、福村選手J1へ
男子サッカー部から史上初

大阪桐蔭高校男子サッカー部の2選手がJリーグ1部(J1)のクラブに進むことが決まった。MFの高須英暢選手（Ⅲ類3年）＝写真上、中央＝が川崎フロンターレ、DFの福村貴幸選手（Ⅲ類3年）＝写真下、中央＝が京都サンガに加入する。2005年に創部された同部からJ1リーガーが誕生するのは初めて。2人は08年度の全国高校選手権初出場、09年の高円宮杯全日本ユース選手権ベスト16入りなどに貢献。高須選手が攻撃、福村選手が守備の要として活躍した。

高須選手は「支えてくれた多くの方々と、応援してくださるファンのみなさまのために早く試合に出て活躍したい」、福村選手は「レベルの高いステージでサッカーをすることが目標だったので、プロになれてうれしい。早く試合に出られるよう、がんばりたい」とそれぞれに抱負を話している。

後輩学生・生徒の活躍に感激

第2回ホームカミングデー

昨年に続き、卒業生や元教員の皆さんを母校に迎えて交流、親睦を深める「第2回ホームカミングデー」が、11月1日、中央キャンパス総合体育館で約350人が参加して盛大に開催された。

今年は学園創立80周年記念として大産大、大産大附属高校、大阪桐蔭高校の合同懇親パーティと同時に開催され、3校同窓会との共同開催。懇親パーティでは、「大学・桐蔭高校吹奏楽部の合同演奏」「大学・附属中学高校チアリーディングチームによる演技」「経営学科アパレル産業コースの学生による着物ショー」、さらには「ソーラーカー参戦プロジェクトチームによるオーストラリアからのグローバルグリーンチャレンジ・アドベンチャークラスの優勝報告」など後輩学生・生徒から歓迎の演奏・演技などが行われ、その都度、参加者から盛大な拍手が送られた。その後、「ペア・ハワイ旅行が当たるお楽しみ大抽選会」などで大いに盛り上がり、閉幕となった。

当日は、家族連れでの参加や若い卒業生の姿も多くみられた。そのうちの一人、2004年に経営学部を卒業した森雅子さんは、「後輩たちの素晴らしい活躍ぶりを拝見できてうれしく思います。多くの卒業生の皆様にもぜひ参加していただきたいですね」と、感想を話した。

抽選会での（左から）司会の笑福亭三喬さん（82年交機卒）・喜多愛さん（05年文化卒）、土橋芳邦理事長、アパレル産業コースの学生2人

アパレル産業コースの学生による着物ショー　チアリーディングチームによる演技

京劇の魅力に酔いしれる

孔子学院総部京劇展演団大阪公演

大産大孔子学院主催の孔子学院総部京劇展演団大阪公演が、11月1日午後、大学多目的ホールで行われ、市民、卒業生、教職員ら約350人が中国の伝統文化のもつ独特の魅力に酔いしれた。演団は、高新・山東大学教授を団長とする山東省京劇院の役者、楽器奏者、舞台設計の総勢23人。昨年の韓国公演に続くもので、今回の日本公演は10月24日に来日。札幌大、北陸大、早稲田大、立命館大の各孔子学院を巡回し、大産大が日本での最終公演となった。

公演では、楽器、化粧、衣装、役者の所作等の「しきたり」の解説を交えながら、「三岔口」「昭君出塞」「孫悟空闇竜宮」など伝統的な題目が演じられた。劇団員の完成された演技とユーモアたっぷりの仕草に観客から惜しみない拍手が送られた。

国際自動車連盟から表彰

ソーラーカープロジェクト

国際自動車連盟（FIA）の年間表彰式が12月11日、モナコの首都モンテカルロのSalle des Etoilesで開催され、本学のソーラーカープロジェクトが「2009 FIA Alternative Energies Cup—Solar powered vehicles クラス」のチャンピオンとして表彰された。表彰式典はFIAが主催したレース「2009 Champions of World Sport」の栄誉を称えるもので、F1やWRCのシリーズチャンピオンも同時に表彰された。本学からは本年度チームリーダーを務めた教育支援センター助手の村上雅享さんと、ドライバーを務めた三浦愛さん（機械工学科2回生）が出席した。

表彰を受ける三浦さん

この記事はすべて学生が取材・執筆しました　学生責任編集

薬物防止のプレゼンを実施

ミナミ活性化プロジェクト

11月16日、薬物防止の講演会を本学多目的ホールで行いました＝写真。聴衆は300人近くに上り、緊張しましたが、こういった機会はほとんど無く、本当に良い経験になりました。

私は学生健康保険委員会（学健保）という委員会に所属しているのですが、その顧問の方から、コンソーシアム大阪が主催する「大阪ミナミ活性化プロジェクト」への参加を勧められ、学健保から私を含め4人が参加しました。このプロジェクトは、大阪ミナミの活性化を若者視線で考えていこうというプロジェクトです。現在、ミナミは薬物問題が深刻化し、ダーティーなイメージが先行しています。多くの人が集まるよう、学生がミナミ界隈の健全な活性化につながる施策を考えてみました。

他大学の学生とともにミナミ活性化についての勉強会を開いた後、グループワークを行い、プレゼンを実施しました。活動は8月初旬～11月下旬という長期間。友達から「何でそんなんに参加したん？」とよく聞かれました。確かに大変でした。しかし、大学時代にいろいろな事を経験し、これからの糧となればと考えているので、プロジェクト参加にためらいはありませんでした。

私は今までこのようなプレゼンの経験が無く、資料作りから発表までの過程すべてにおいて苦労しました。特に、問題を発見し解決していく手法をうまく活用できなかったり、落とし所をなかなか見つけられなかったり……。チーム内での意見がまとまらないこともありました。

しかし、このプロジェクトを通じて、他大学の教授や講師の方、学生等さまざまな人々と出会い、いろいろな体験ができました。そこから、社会の情勢や動向を知り、これから必要になるであろうコミュニケーション能力、自立性、チームでの問題発見、問題提起、課題解決、プレゼンなどの能力を養うことができました。またチームで動くことの大変さや重要さ、そして物事を達成したときの喜びも高いレベルで体験することができました。

特に、各大学での発表が成功したときは本当にうれしく思いました。

私は、大変貴重な体験をしたと思います。皆さんも何かに挑戦して自分を磨いてみてはいかがでしょうか？

情報システム工学科3回生　足立大地
（学生健康保険委員会・クリエイトセンター所属）

第6回大阪モーターショーに4回目の出展

12月4～7日にインテックス大阪で開催された第6回大阪モーターショーに、大産大からガライヤBEV、OSUフォーミュラ2009、ソラえもん号の3台の車両が出展された。同ショーは、2年に1度開かれる西日本最大級のモーターイベントで、今回は電気自動車などのエコカー展示が特徴。厳しい経済情勢の中、マツダ、三菱自動車、富士重工業の3社が初めて出展を見送るなど、大幅に規模が縮小されたが、目標入場者数の22万人を上回る約22万5000人が入場し、会場は大いににぎわった。

大産大は4回目の出展。各車両の指導教員と学生に加えて、前回に続き、経営学科アパレル産業コースの女子学生7人が車両説明やパンフ配布などで協力した。各車両パンフ、大学案内、学園広報誌などの配布部数も約2万5000部に達し、本学出展車両への見学者は連日途絶えることはなかった。

◀ガライヤBEV
（バイオ・エネルギー・ビークル）
草や木、廃プラスティックや廃木材などを利用して、本学で開発された技術により電気エネルギーに変換する。廃木材や草木を使うことでカーボンニュートラルの観点から非常に有意義なシステムとして電気自動車（ガライヤEV）を走らせる。

▲OSUフォーミュラ2009
「試される学生独自のものづくり」、全国80校と競うために本学の学生がコンセプトから設計・製作を一貫して担当したフォーミュラカーで、今年の全日本学生フォーミュラ大会で自動車工業会会長賞を受賞した。夢はFormula　SAE国際大会への出場。

◀ソラえもん号
16年前に大産大が参加して製作されたソーラーカー。当時の人気キャラクター「ドラえもん」をモチーフにソーラーカーが時代背景に合致したことから「ソラえもん号」が誕生した。当時オーストラリア3000キロを走行した実績がある。現在は、学生たちによる小学校での環境授業に協力している。

クラブ活動の記録

無念、全国大会３連覇ならず

大産大附高アメフット部、関西地区決勝で敗退

11月1、8、21日に神戸市の王子スタジアムで開催された第40回全国高等学校アメリカンフットボール選手権に出場した大産大附属高校アメリカンフットボール部は、1回戦、2回戦と順当に勝ち上がったが、準決勝・関西地区決勝で立命館宇治高校に延長の末敗退し、全国大会3連覇はならなかった。

立命館宇治とは今春の関西大会の準決勝でも対戦し16―36で完敗。選手、スタッフとも強い危機感を抱き、以後厳しい練習を積んで雪辱を誓って再戦に臨んだ。前半で6―14とリードされたものの昨年の覇者の意地を見せて一度は14―14の同点に追いついた。最後は延長戦で7点を奪われて力尽きたが、チームの要の武知現大主将（スポーツ3年）らけが人が多い中、選手たちは本当によく健闘した。王座奪還を新チームに期待したい。

全国大会の結果

1回戦○47―21啓明学院（兵庫）
2回戦○35―7 北大津（滋賀）
準決勝●14―21立命館宇治（京都）

大産大

★体育系クラブ★

■アーチェリー部

○第64回国民体育大会（9/27　吉田ふれあい広場）【個人】宮崎里圭子（スポ健1回）70㍍281点70㍍256点・計537点【団体】1回戦敗退（大阪192-200富山）
○第47回関西学生アーチェリー新人戦（10/18服部緑地公園陸上競技場）【女子】5位　宮崎　50㍍279点・30㍍334点・計613点
○大阪府インドア公認記録会（11/22大阪市長居球技場室内練習室）【1回目】＜リカーブ男子＞12位　竹中貴浩（流通2回）18㍍271点・18㍍269点・計540点▽16位　豊田光昭（経営3回）18㍍267点・18㍍266点・計533点▽19位　松井聡之（情報2回）18㍍256点・18㍍267点・計523点【コンパウンド】男子15位　小林亮介（都市4回）18㍍272点・18㍍265点・計537点＜リカーブ女子＞7位　宮崎　18㍍264点・18㍍270点・計534点【2回目】＜リカーブ男子＞5位　竹中　18㍍271点・18㍍267点・計538点▽7位　豊田　18㍍267点・18㍍264点・計531点▽13位　松井　18㍍235点・18㍍253点・計488点【コンパウンド】男子25位　小林　18㍍243点・18㍍234点・計477点

■空手道部

○全日本大学選手権（11/23大阪市中央体育館）【男子団体】2回戦敗退　1回戦3-2福工大、2回戦0-5近大工【女子団体】3回戦敗退　1回戦3-0一橋大、2回戦3-0立教大、3回戦0-3駒澤大

■弓道部

○関西学生リーグ（9/20~10/25大産大弓道場他）2部　1勝3敗　106-124和歌山大、115-103京産大、118-125関西大、105（11）-（15）105佛教大
○関西女子学生リーグ（9/20~10/25大産大弓道場他）5部　0勝3敗　33-44甲女大、23-26近福大、22-42京文大※11/8入替戦25-39梅女大（6部降格）

■剣道部

○関西学生新人大会（11/22近大記念館）【団体男子】2回戦敗退　1回戦3-0電通大、2回戦0-4近大【個人女子】3回戦敗退　井口未来（スポ健2回）▽2回戦敗退　田中香帆（経済2回）、河野志保（スポ健1回）

■ゴルフ部

○関西学生月例大会（9/30奈良柳生CC）5位　小宮路真司（スポ健2回）38・40=78▽6位T　林貴映（経済3回）39・40=79※ともに会長杯本戦出場権獲得
○関西女子学生月例大会（9/30奈良柳生CC）3位　小猿裕子（スポ健1回）42・41=83▽4位　田中蘭子（スポ健1回）42・42=84※ともに会長杯本戦出場権獲得
○関西女子学生会長杯大会（10/7有馬ロイヤルGC）13位T　小猿　38・42=80▽15位T　田中　38・43=81
○関西学生男子新人戦（10/13タイガースGC）24位T　杉本晃行（経済2回）43・44=87▽15位T　石中知人（スポ健1回）56・67=123
○関西男子学生会長杯予選（11/2大甲賀CC）杉本晃行（経済2回）82、福岡嵩啓（流通3回）83、松田聖也（経済1回）84※いずれも予選通過
○関西男子学生会長杯大会（11/4~6大甲賀CC）30位T　小宮路　81（42・39）・87（44・43）・79（40・39）=247※カットが36位Tのため下記3人は3日目に進めず。50位T　福岡　88（41・47）・87（43・44）=175▽53位T　杉本　89（47・42）・88（42・46）=177▽57位　松田　90（48・42）・92（46・46）=182

■サイクリング部

○全日本学生ロードレースカップシリーズ（第6戦立命館R）（9/20立命館びわこ特設コース）【男子】11位　伊勢洋人（スポ健2回）▽12位　剱持草（交機3回）
○全日本実業団サイクルロードレースin輪島（10/17~18石川県輪島市）【BR-1】10位　永山貴浩（交機4回）▽41位　剱持
○ツール・ド・おきなわ（11/8沖縄県）【UCI】（プロ）第2ステージ200㌔67位　澤田賢匠（交機2回）

■サッカー部

○関西学生サッカーリーグ（後期）（9/12~11/29鶴見緑地球技場他）1部11位（2勝7敗2分、勝ち点8）0-5阪南大、4-1びわこ大、2-3関西大、1-3関学大、0-0同大、0-3京産大、1-3桃山大、2-3大院大、0-0大教大、0-1立命大、3-0大体大＞、通年10位（6勝13敗3分・勝ち点21）※姫獨大との入替戦へ。

■自動車部

○全関西学生ジムカーナ選手権（9/18名阪サーキット）スラローム競技第2種（ジムカーナ）総合8位
○全日本学生ジムカーナ選手権（8/29~30鈴鹿サーキット）スラローム競技第2種（ジムカーナ）総合12位【決勝】総合21位

■スキー競技部

○全関西サマージャンプ大会（10/11~12妙高高原赤倉シャンツェ）14位　大野良太（交機1回）32㍍・32㍍▽18位　植田康孝（文化2回）23㍍・26㍍▽19位　栗本貴啓（スポ健1回）23.5㍍・25.5㍍
○秋季季節外競技会（11/8グリーンピア三木）【男子アルペン5.8㌔】54位　串田和也（流通2回）▽87位　大川直輝（経済3回）▽94位　栗本【女子アルペン2.8㌔】31位　齋藤唯（文化3回）【男子ノルディック15.8㌔】42位　植田▽54位　大野

■柔道部

○全日本学生体重別選手権大会（9/6岸和田市総合体育館）【個人戦】60㌔級2回戦敗退　柴田大地（スポ健2回）▽66㌔級ベスト16　吉本幸紀（経済3回）、2回戦敗退　中村一真（経営4回）
○講道館杯全日本体重別選手権（11/15千葉ポートアリーナ）【個人戦】66㌔級1回戦敗退　中村

■準硬式野球部

○西都6大学秋季リーグ（8/26~9/29伊丹スポーツセンター）1勝7敗2分（1敗1分・大手前大、2敗・桃山大、1勝1敗・奈教大、1敗1分・摂南大、2敗・京産大）
○関西地区6リーグ対抗大会（10/24~11/22南港中央野球場他）0勝5敗（0-6近畿六大、0-3阪神六大、2-4京阪神2部、0-6京滋六大、4-11関西医歯薬大）

■少林寺拳法部

○第47回関西学生大会（9/27大芸大）【男子三段以上の部】5位　田淵貴寛（環境3回）・大城麻友美（スポ健1回）組▽6位　矢野陽祐（経済2回）・佐藤良英（経済1回）組【男子初段の部】1位　真鍋佑輔（経営2回）・橋本大輝（環境2回）組【男子単独の部】4位　田淵【女子二段以上の部】1位　鳥越景子（スポ健2回）・赤木優美（スポ健2回）組【女子単独の部】1位　赤木
○東大阪大会（10/25東大阪アリーナ）【男子有段の部】1位　田中俊輔（経営2回）・赤木組▽2位　矢野・佐藤組▽3位　真鍋・鳥越組【男子有段単独の部】1位　矢野▽2位　森田賢吾（交機3回）▽3位　真鍋【男子段外の部】1位　立岩和也（交機1回）・村上直也（交機1回）組▽2位　天野雄貴（経済1回）・前田康介（交機1回）組▽3位　天野・西嶋梓（スポ健1回）組【男子単独段外の部】1位　村上▽2位　天野▽3位　前田【女子有段の部】1位　貫代阿友美（経済2回）・大城組【女子有段単独の部】1位　赤木▽2位　大城▽3位　貫代【女子単独段外の部】1位　西嶋
○全日本学生大会（11/15日本武道館）【男女初段の部】優勝　真鍋・鳥越組【女子三段以上の部】4位　貫代・大城組

■ソフトボール部

○西日本大学選手権（8/7~10兵庫県立佐野総合運動公園他）11-4日福大※8/9以降の試合が天候不良のため消化できず大会中止、同率1位
○全日本大学選手権（8/27~30宮崎県県総合運動公園他）ベスト8　3-1国武大、2-0名桜大、0-1同大
○関西学生秋季リーグ（10/4~25万博公園スポーツ広場）1勝4敗（2-12関西大、3-9京産大、7-1龍谷大、1-11立命大、6-7同大）

■テコンドー部

○全日本テコンドー選手権（11/20岸記念体育館）【一般男子初級】87㌔級準優勝　中西昴平（機械4回）

■バレーボール部

○関西大学秋季リーグ（9/12~10/25各大学体育館）1部2位（8勝1敗、3-1同大、3-1天理大、3-1甲南大、3-2近大、3-2関学大、2-3立命大、3-2大商大、3-1大体大、3-0龍谷大）

■ラグビー部

○関西大学Aリーグ（4/19~7/4各大学グラウンド）8位（0勝7敗）7-109関学大、10-66同大、31-61天理大、7-92立命大、14-73摂南大、28-42大体大、5-22京産大

★文化会クラブ★

■吹奏楽部

○みどりの里慰問演奏（8/28みどりの里）「川の流れのように」「涙そうそう」等5曲を演奏
○吹奏楽の日（9/23JR京都駅広場）「ルパン三世のテーマ」「こちら葛飾区亀有公園前派出所」等を演奏
○大阪府吹奏楽コンクール（9/30大東市立総合文化センター）「真夏の夜の夢」「涙そうそう」「川の流れのように」等5曲を演奏
○四條ふるさとまつり（10/18野崎商店街）「セレブレーション」「セプテンバー」等を演奏
○日本クラシック音楽コンクール（地区本選）（10/29大和郡山城ホール）全国大会進出ならず

■創作文学研究部

○創作コンテストに参加（9/24～10/27大産大）※2人が奨励賞を受賞
○阪駒祭での展示および阪駒本の発行（10/9～11大産大）

■テクノフリーク部

○ロボファイト10（10/10大阪産業創造館）SRC級ベスト8※「つばめ」「ギャラピー」「ピンギキュラ」が雑誌「ロボウォッチ」の取材を受ける。大産大からは6台出場（全75台出場）

■内燃機関研究部

○第23回Hondaエコパワー燃費鈴鹿大会（6/20鈴鹿サーキット）マシントラブルのためリタイア　Advanced　Force-¢
○第29回本田宗一郎杯Honda　エコノパワー燃費競技全国大会（10/10~11ツインリンクもてぎ）グループⅢ（大学クラス）　Advanced　Force-¢　燃料消費率585.35㌔/㍑

大阪桐蔭高等学校

■ラグビー部

○全国高校大会大阪府第2地区予選（9/20~11/8花園ラグビー場ほか）2回戦48-13合同E、準々決勝79-5合同A、準決勝45-5汎愛、決勝0-36常翔学園

■女子サッカー部

○関西高校女子リーグ（11/8~28三木防災球技場ほか）準優勝=2勝2分（0-0日ノ本学園、0-0八幡商、1-0京都精華、3-0大商学園）
○大阪高校総体（9/13~11/22成城高ほか）優勝=3年連続3回目（予選リーグ　16-0松原、17-0合同A、順位決定リーグ　8-0星翔、2-0大商学園）
○全日本女子選手権（12/6三重・鈴鹿スポーツガーデン）1回戦　0-2伊賀FCくノ一

■卓球部

○大阪高校総体（11/1臨海SC）準優勝（1回戦3-0常翔学園、準々決勝3-0寝屋川、準決勝3-0城東工、決勝0-3上宮）※メンバー=山内、櫻井、山上、川上、奥山、高田、政本剛、福嶋、近畿高校新人卓球大会に出場決定

■ゴルフ部

○大阪府高校私学総合体育大会（9/29大阪GC）女子団体　優勝▽女子個人2位　寺田味花帆
○大阪府高校新人戦（11/24泉ヶ丘CC）男子6位　後藤涼也▽女子3位　寺田

クロスワードパズル

QUOカードが当たる！

縦のヒントと横のヒントを参考に空白のマスにひらがなを入れ、クロスワードを完成させましょう。「カギ」の4文字で、言葉を作ってください。正解者には、抽選で50名に景品（QUOカード）を用意しています。応募資格は、大阪産業大学（大学院含む）、同短期大学の学生および大阪産業大学附属中学・高等学校、大阪桐蔭中学・高等学校の生徒に限ります。解けた方は、大学・短大は本館1階の学生部、4号館2階の工学部事務室、3号館1階の短大事務室に、産大中・高と桐蔭中・高は、事務室に設置しているクロスワードパズル投函箱に入れてください。発表は、景品発送をもって代えさせていただきます。**応募方法は、コピーをとるか、メモ用紙に解答と学籍番号（中・高は学年とクラス）と氏名を明記して投函してください。締め切りは、2010年1月30日（土）まで（1人1応募に限ります）。**前回のクロスワードパズルには、251人の応募があり、厳正に抽選してQUOカードを50名様にお送りしました。ご応募ありがとうございました。

縦のヒント

1. 1月25日は「左遷の日」です。901年、菅原道真（当時・右大臣）が、醍醐天皇により九州の○○○○に左遷されました。
2. 円熟する事。穏やかになること。「○○が取れる」
3. ○○下。○○紐。○○ベラ。
4. おいしい料理を○○○○する。
5. 「冠○○葬祭」
6. 地球の衛星。○○
7. タンカー。○○○船。
8. 計画と実際の数値に○○が生じる。
9. フィギュアスケートは、ショートプログラムと○○○プログラムの合計点で順位を決めます。
10. 風○○。雷○○。星○○。
11. 赤色の宝石。○○○。
12. ひっくり返ると起き上がれない？○○。
13. 台本にない即興のせりふ・演技。○○○○。

横のヒント

A. 大雨の後などの濁った川の激しい流れ。○○○○○。
B. 念入りでないこと。「○○な仕事」
C. 菅原道真は、『東風吹かば匂ひ送来せよ○○の花主無しとて春な忘れそ』と詠み、都を旅立ちました。
D. 感情が高ぶる事。○○○○。
E. 医療費の自己○○○が増える。
F. 1月24日は「○○○○ラッシュの日」です。1848年1月24日カリフォルニアの川で砂金が発見されました。その後、噂が全米に広まり「○○○○ラッシュ」となったそうです。
G. 1077年1月25日、神聖ローマ帝国のハインリヒ4世が、ローマ教皇・グレゴリウス7世にお詫びをしました。「○○○○の屈辱」と呼ばれている出来事です。
H. 最下位。○○。
I. 救心は、○○○・息切れに効く薬です。
J. 香草・薬草。○○○。